

2011/3/12

全文公開/「吉田調書」から見えてきたもの  
2014.10.15 もっかい事故調

# 「現場」との「距離」 —事故時の対応をめぐって—

上澤千尋  
Image © 2014 DigitalGlobe  
原子力資料情報室

Google earth

135 m

2011/3/12

2

コントロール建屋



1

2

3

4

事務本館



免震重要棟

Image © 2014 DigitalGlobe

Google earth

135 m

ツアーガイド



2003

画像取得日: 2011/3/12 37°25'12.91" N 141°01'45.10" E 標高 41 m 高度 663 m

# 現場把握の困難さ

- 免震重要棟から1号炉の中央制御室までの直線距離は400メートル足らずだが、電気がないため通信機器が使えず、炉内パラメータの伝達の1回のやりとりに1時間を要することもあった。
- 原子炉水位計をはじめとする計測装置の信頼性に疑問。  未解決。

# 事故時に「機器が働かない」 ことの意味

- 主蒸気逃し安全弁
- 非常用炉心冷却系
- 原子炉隔離時冷却系(RCIC)の動作確認  
...
- 動力に電気を使わない非常用復水器
- 格納容器ベント弁, ベントの確認

# 「電気がない」ことの意味

- 電気がないためほとんどの機器が動かないことを理解しているつもりでも、いつの間にかそれらが動いていると思っ込んでいる。



**質問者** 建屋の非常用の排気の系統で、SGTS、あれというのは、このときは使える状況ではないんですか。

**回答者** ないです。非常用系の電源がないですから、SGTSがもし生きていれば、水素爆発はなかったですよ。絶対にないです。そこから非常用換気しているわけですから、そこから原子炉建屋の中の気体が全部フィルターをかまして外に出ていくわけですから、これは建屋の中の非常用の換気が生きていれば、水素爆発は起こっていません。だから、我々がちょっと意識で抜けていたのは、何か換気して、SGTSは止まっている、通常換気系も止まっているんですけども、換気してくれているような勘違いしている部分があって、そこで水素がたまって爆発するという発想になかなか切り替えられていなかった。

(2011年7月29日聴取調書14ページ, SGTS=非常用ガス処理系)」

# シビア・アクシデントの対応は 困難を極める

- 原子炉の状態が分からず，使える道具も限られ，しかも，どれが使えるか使ってみなければわからない。
- 操作可否の判断はどうする？
- とても人の手には負えない

ありえない！



ほったらかしにしておいても収拾できるシステム？ 全自動化運転？



# 規制の問題について

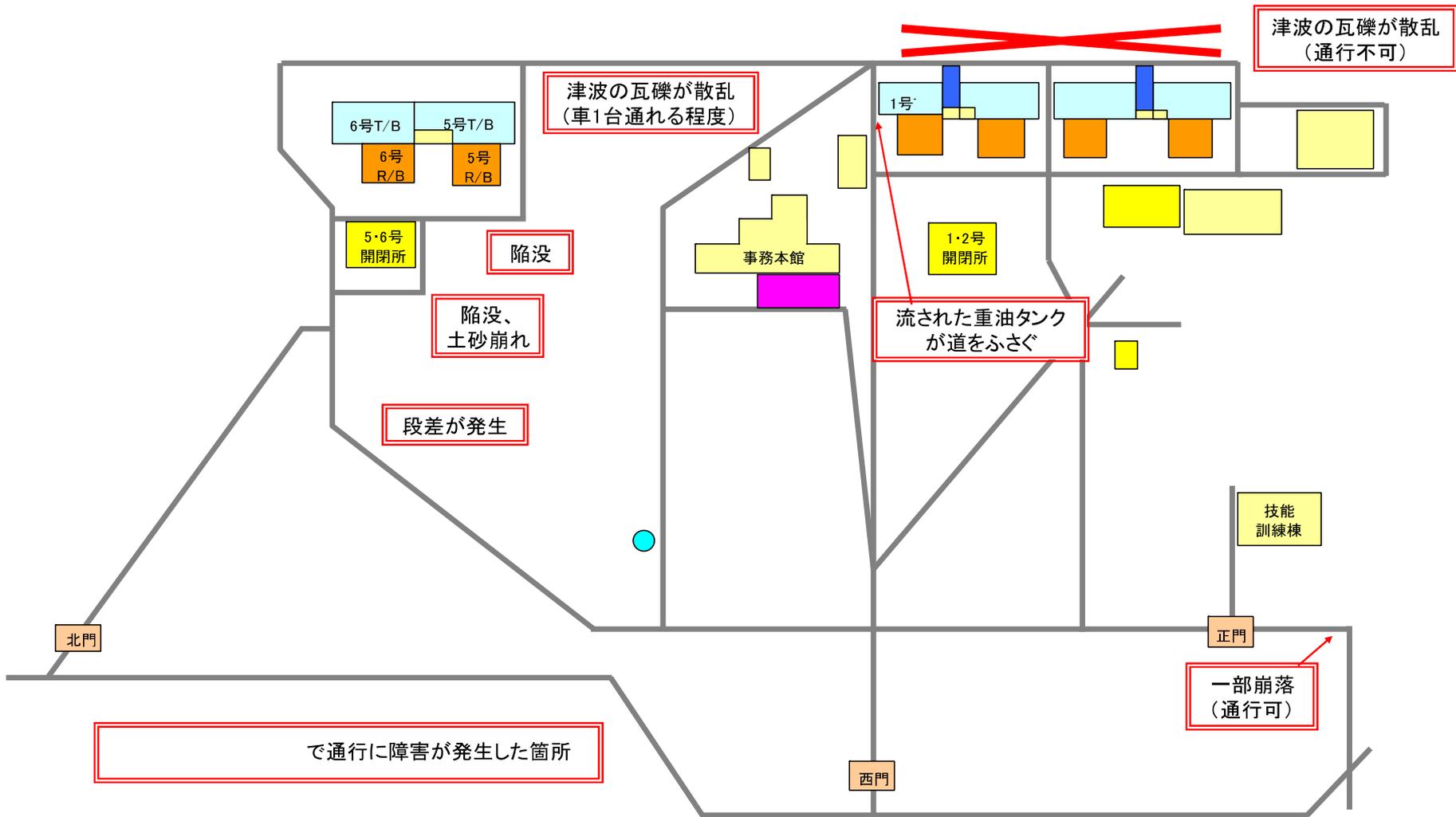
- 耐震補強
- フィルターベント設備
- 火山対策
- 大型航空機衝突
- 事故のシナリオ検討

設置を猶予したり, 事実上の緩和にした上で原発の再稼働可能な状態にするのは規制機関の怠慢

# 情報公開のお願い

- 政府事故調のすべてのヒアリング調書
- 国会事故調のすべてのヒアリング報告
- 東京電力による社員・協力社員へのインタビュー
  
- 各事故調の資料
  
- 原子力規制委員会の福島第一原発の規制関連資料
- 経済産業省の福島第一原発関連資料
  
- 東京電力の福島第一原発関連の各種申請書, 報告書

予備



2011/3/12

2

定規

直線 **パス** Pro

地面上の2地点間の距離を測定

地図上の距離:	0.37	km
地上の距離:	0.37	
機首方位:	123.29	度

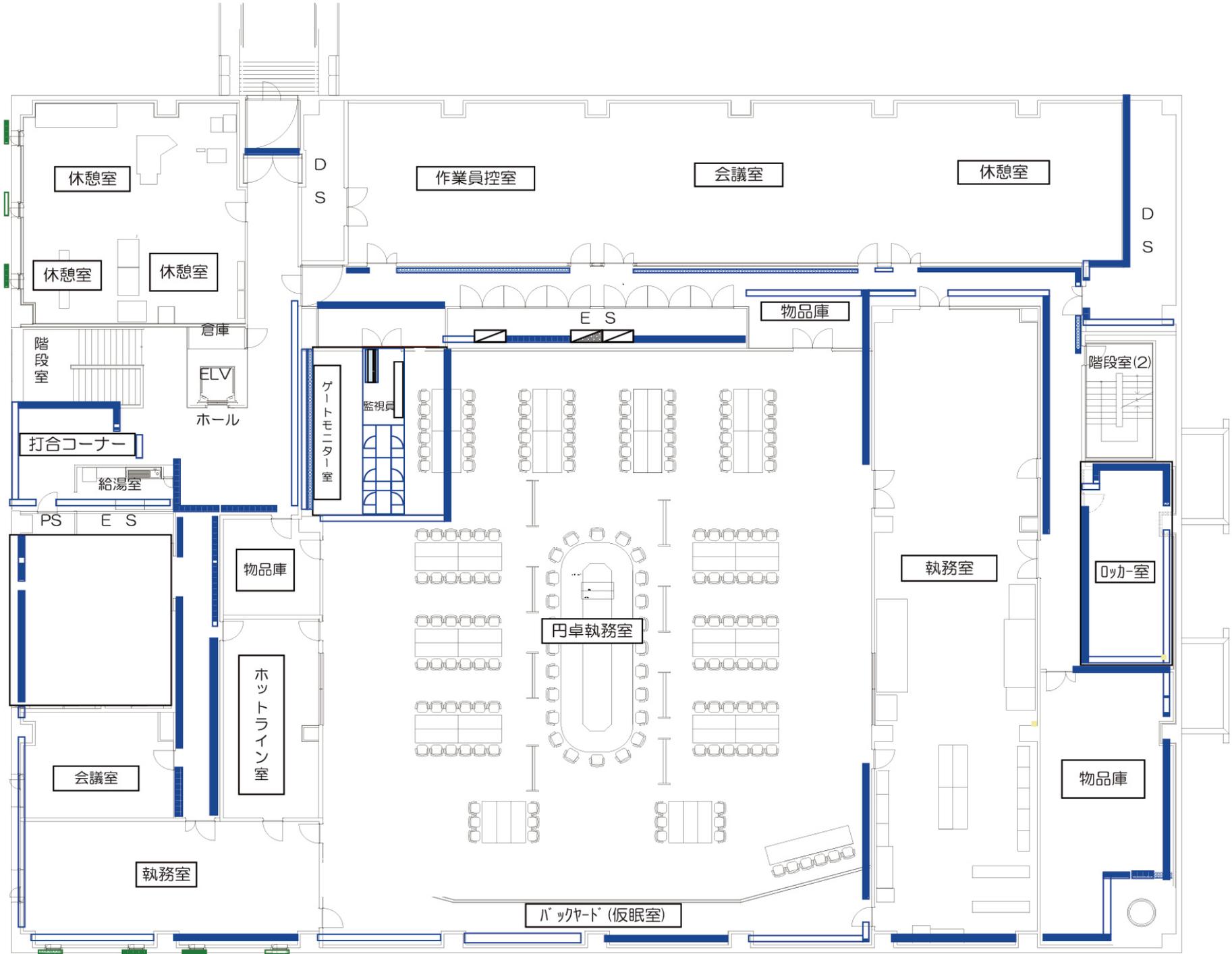
マウスナビゲーション

保存(S) 消去

Image © 2014 DigitalGlobe

135 m





休憩室

作業員控室

会議室

休憩室

休憩室

休憩室

階段室

倉庫

ELV

ホール

打合コーナー

給湯室

ゲートモニター室

監視員

E S

物品庫

階段室(2)

PS

E S

物品庫

執務室

Docker室

円卓執務室

ホットライン室

物品庫

会議室

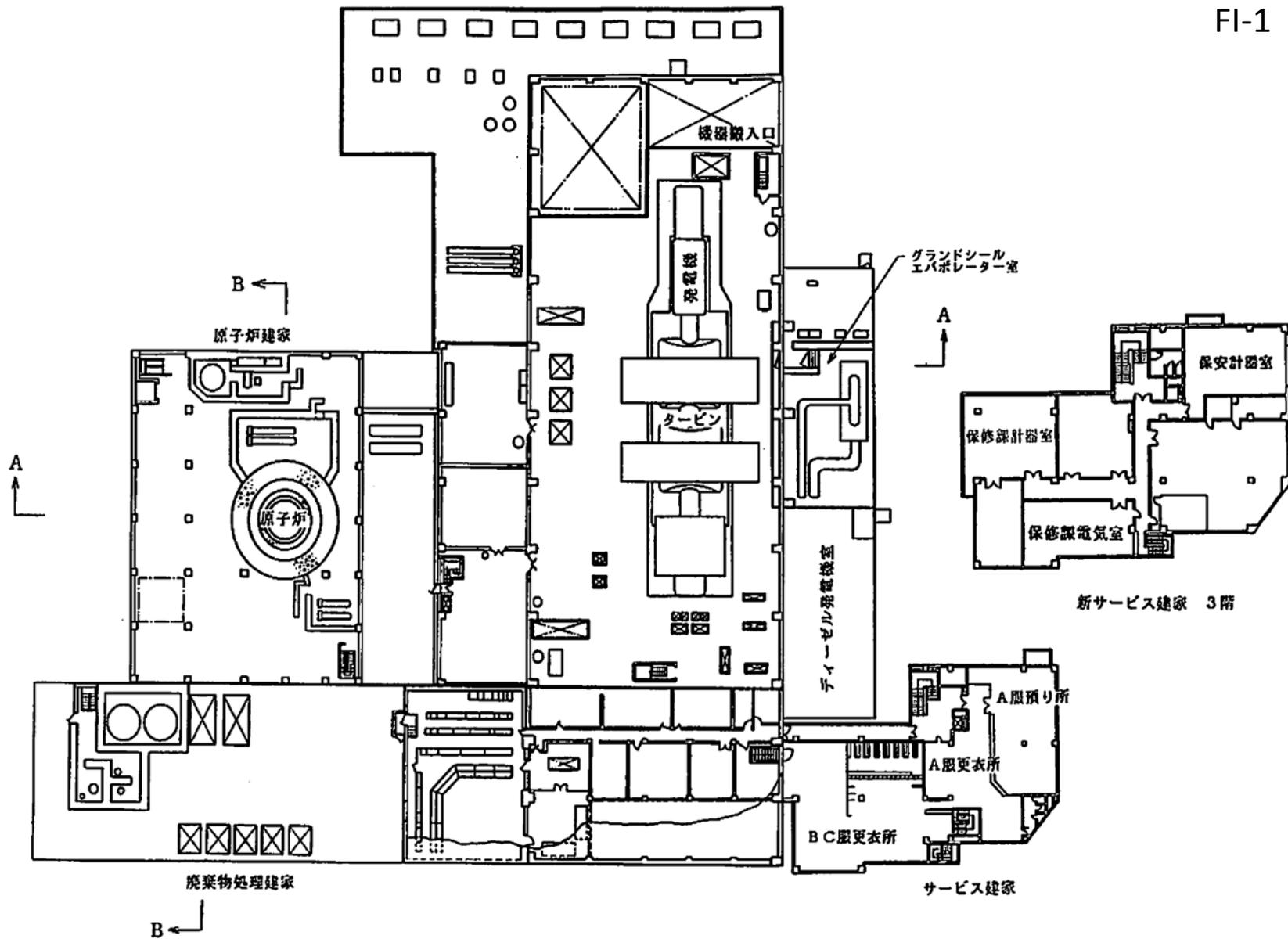
執務室

バグヤード(仮眠室)



タービン建家

FI-1



第2.1-4図 タービン室および原子炉補機平面図